

令和6年度1学期終業式 校長式辞

今日で令和6年度1学期が終了します。皆さんにとってどのような1学期だったでしょうか。年度当初の対面式で、私は「9枚のカード」について話しました。覚えていますか？ 皆さんは高校入学と同時に、学期に1枚ずつ使えるカード、つまり1年間で3枚、掛ける3カ年で合計「9枚のカード」を手にするようになる。そのカードを学期ごとにどのように切り、勝負していくかで皆さんの高校生活は大きく変わると話しました。現在、1年生は1枚目、2年生は4枚目、3年生は7枚目のカードを出し終えたこととなります。勝負を優勢に進められていますか？ 先のことなど深く考えずにただ何となく、または今の状況にやけっぱちになって、適当にカードを出していませんか。特に3年生は手にしている残りのカードはあと2枚です。これらのカードが勝負を決める2枚になります。高校生活を勝利で終えられるよう、早速この夏休みにじっくりと次なる手を考え実行に移してもらいたいと思います。

本校はグランドデザインの重点目標に「予測が困難な時代を主体的に生き抜く力を持った生徒の育成」を掲げています。「予測が困難な時代」だからこそ、先のことを見通す洞察力は当然必要になってきますが、予測通りに物事が進まなかった場合、その状況を柔軟に、そして臨機応変に切り抜けていく思い切りの良さ・図太さのような力も必要になってくると思います。一番大切なのは、何が起きても絶対に勝負を最後まで諦めない、「負けてたまるか!」「絶対に負けないぞ!」という肝の据わった態度、「胆力(たんりょく)」を持つことなのかもしれません。

「予測が困難な時代」というフレーズがまさに当てはまるような出来事が先週末起こりましたね。選挙演説中のトランプ前大統領が銃撃された事件です。このような暴力は決して許されるものではないこと、演説を聴いていた聴衆の中に銃弾に当たり亡くなった方がいたことを考慮すると、トランプ氏の命に別状がなかったことだけを取り上げ、「不幸中の幸い」とこの事件を簡単に片付ける訳にはいきません。でも、私はこの事件を見る中で、トランプ氏が右耳だけの負傷で済んだという強運の持ち主であること、自分の命を狙われるという恐怖に満ちた状況であっても、戦う姿勢を堂々と示した点に思わず驚愕してしまいました。トランプ氏の政治信条や対立候補への言動などはここでは考えません。突然逆境に遭遇したときに、「俺は負けない! 俺は戦う!」という勇敢な姿勢が、英雄を賞賛する国民性のアメリカ人には力強く映ったのではないかと一点に注目したいのです。青空をバックにたなびく星条旗の前で、護衛官に囲まれながらもトランプ氏が力強く拳を突き上げている写真がニュースで何度も出てきますが、これはまさにアメリカ人好みです。つまり、私が先ほど話した「胆力(たんりょく)」がトランプ氏にはあるということがこの事件が示すことになったと私は感じるので、選挙の行方に大きく影響する出来事になるかもしれません。皆さんはどう感じていますか？

ちよっと重たい話になりましたが、「国民性」を話題にしたので、今度は「国民性」にまつわるちよっと軽い話をしますね。

皆さんは「沈没船ジョーク」の話を知っていますか？ 沈没船ですから「タイタニック・ジョーク」とも言うらしいです。各国の国民性をジョークで表している話なので、エスニック・ジョークとも言うみたいですね。とにかくジョークですから、思わず「クスッ」と笑える程度の話ではあります。いきますよ。

「世界各国の人々が乗った豪華客船が沈没しかかっています。しかし、乗客の数に比べて、脱出ボートの数が足りません。船長は、各国の乗客を海に飛び込ませるために何と言ったでしょうか？」というものです。

先ほど話題にしたアメリカ人には「飛び込めばヒーローになれますよ」。これは英雄好きのアメリカ

人にはわかりやすいですよ。

イギリス人には「紳士ならこういう時に飛び込むものです」。紳士の国ならではのね。

ロシア人には「海にウォッカの瓶が流れていますよ」。酒好きのロシア人はすぐに飛び込みそうですね。

イタリア人には「海で美女が泳いでいますよ」。女好きが多いということでしょうか。「飛び込んだら女性にモテますよ」というのもあるらしいです。

ドイツ人には「飛び込むのが規則になっております」。規律・ルールを重んじるドイツ人向けです。フランス人には「飛び込まないでください」。へそ曲がり・あまのじゃくな人が多いということでしょうか。

中国人には「おいしい魚が泳いでいますよ」。食いしん坊が多いということでしょうか。

そして我々日本人には何て言うと思いますか？ 答えは、

「みんな飛び込んでますよ」

です。周りの人と足並みを揃えるといえは聞こえはいいですが、集団からはみ出しきれない、行動の意味をよく考えずに、皆がしているからという理由で右へ習への行動を取ってしまう、没個性的な日本人を笑うジョークになっているのです。私はこれを初めて聞いたとき、「確かに日本人にはこういう面があるかもね」と自嘲的に笑ってしまったのですが、だからといって外国人からこのように思われ続けたままでいいとは思えないのです。特にこれからの時代は人と同じ事をしていては、周回遅れの人生を歩むことになるかもしれない。それぐらいの覚悟を持った方がいいと思うんですね。

人と同じことを敢えてしないという観点に立つと、いつも思い出す人がいるのです。瀬谷ルミ子さんという女性です。『職業は武装解除』という著書のある方です。武装解除とは、アフリカなどの紛争地で、紛争終結後に兵士たちから武器を回収し、一般市民として生活していけるように職業訓練等を施して社会復帰させる仕事です。私はこの著書を読んで、是非生徒たちに話をしてもらいたいと、以前勤めた高校で講演を依頼したことがあります。私がこの方に興味を持ったのは、彼女が高三の時に目にした一枚の写真です。アフリカの小国ルワンダで発生した大虐殺、その難民キャンプでコレラで死にかけている母親を、三歳ぐらいの子どもが泣きながら起こそうとしている写真。著書の中で瀬谷さんは次のように書いています。

「私と彼女たちの間にあるのは、カメラのレンズひとつ。この母親は、ひどく衰弱していた。傍らで泣き叫ぶ我が子を抱き寄せることもできない。もう長くはないだろう。高校三年生の私は、お菓子を食べながら、死にゆく彼女を眺めていた。この瞬間、私のなかで、たくさんの「なぜ？」という思いが溢れ出てきた。お茶の間でお菓子を食べながら、紛争地の現場を眺める私という構図。死に行く人々は、レンズの向こう側で、数十億人の人々が眺めていることすら知らずに、息絶えていく。「なぜ？」私が日本の首相だったら、ありったけの飛行機にめいっばいの医薬品と食料をつめて、現地に飛ばすのに、そんなことをしている国はない。「なぜ？」どうやら、世界の仕組みは、世間知らずな私には想像もつかないくらい複雑なようだ。この疑問の答えを知りたい、そう思った。」

これをきっかけに瀬谷さんは大学では国際関係を学び、さらに学びを深めるためにイギリスに留学します。その後は武装解除の専門家として活躍するのですが、そんな瀬谷さんが講演会で語ってくれた今でも忘れられない言葉があります。

「職業を決める際に、すでに確立されている分野の1001人目の専門家になるよりも、まだ確立されていない分野で1人目の専門家になりたいと思った。その方が自分の価値が圧倒的に高まると思った」

とおっしゃったのです。日本では武装解除などという言葉が職業としては馴染みがありませんが、発想としては何年も先を見据えた言葉だと思いました。今でもなお、貴重な存在として活躍されているはずです。ちなみに瀬谷さんの著書『職業は武装解除』は図書室に注文してありますので、入荷したら読んでみてください。

勤がいい人は、なぜ私がこの話をしているのかにそろそろ気付いているかもしれません。私は日頃から皆さんに、小規模校である自分たちにしかできないこと、与論だからできること、与論でしかできないこと、これにこだわって探究活動等を進めてほしいと言っていますね。本土の高校生と同じ事をする必要はない。むしろ、同じ事はしない方が良い。その観点に立てば、与論は宝の山です。自然・文化・人の生き方など、本土とは異なる素晴らしい題材がたくさんあります。これを使わない手はないのですね。

私は4月に赴任してから図書室にある与論関係の本を読みあさりました。その中で最も感銘を受けたのが、近年まで土葬の風習があったということです。土葬すれば数年後にお骨を洗い清める洗骨の風習もセットであるわけですね。その洗骨についてある方が、「お骨を洗う際には、怖さなどはない。愛おしさを感ずる」と言われているのに感銘を受けました。確かに、何の前ぶれもなく突然人骨に出くわせば、それはびっくり驚き、恐怖も感ずるかもしれません。でも、自分の大切な先祖のお骨だと分かっている話ば別だと思うのです。ですの私は、もう亡くなっている自分の祖父祖母のお骨を洗骨することを想像してみたのです。そういう状況になれば、多分、祖父母との思い出が走馬灯のようによみがえり、「じーちゃん、ばーちゃん、あの時は〇〇してくれてありがとう。おかげで今の自分があるよ」などと考えながら、涙をぼろぼろ流しながら洗骨することが想像できるのですね。「愛おしさを感ずる」というのも理解できるのです。ですから与論の方は、今自分が存在しているその源流である先祖に対し、尊い存在として常に感謝申し上げている。それが「とーとうがなし」という感謝の言葉に引き継がれているとも考えられるですね。素晴らしい文化だと思います。

このように、例えば土葬・洗骨という風習そのものを調べるだけではなく、その風習がその土地の人々の思考や精神にどのような影響を与えているかまで掘り下げれば、それは立派な探究活動になるばかりではなく、大学レベルの研究材料にもなるのです。だからこそ与論にはいろんな大学の先生方がよく行き来しているということも忘れないでください。それくらい面白い題材があふれているのです、この島には。

さあ、この素晴らしい与論島で高校生活を送ることができる幸せをかみしめながら、他の地域の高校生にはできない、与論だからできること、与論でしかできないことを追求し、あとは、全国の高校生がしなければならぬ共通の学習については、他の地域の高校生を上回る「座学力」をつけて無敵状態にしてください。そのようにして与論高校生である自分に誇りを持てるようにしてください。今日から、次のカードをどう使うかをよく考え、即行動に移してほしいと思います。2学期の始業式で皆さんが大きく成長していることを期待して今日の話が終わります。